

新刊紹介

フオーレル
レンデル 西洋哲學史 第一卷

粟田賢三、吉野源三郎、古在由重共譯

フオーレルレンデルはマールブルク學派に屬する哲學者である。原著は著者の序文に見える如く、ユーベルウエツヒハインツエやエルトマン等の浩瀚なる哲學史ミシユヴェークラーなごの摘要的な哲學史ミの間に立つて、繁に流れず、簡に失しない中型の哲學史ミして、哲學を専門に學ばんミする學生又は教養ある一般の人々の爲に著されたものである。これが如何に歓迎されたかは、一九〇二年に初版を出して以來、一九二七年までに七版を重ねたことを以てもわかる。専門家の深い研究には、參考になる點が少いにしても、初學者の入門書ミしては正に手頃なものである。

かゝる教育的目的を持つた書であるから、成るべく廣く、かつ客觀的に敘述してある。又多くの參考書研究資料をひけてある。最新の學的研究を出来るだけ取入れて

る。殊に原著は出来るだけ簡潔平易な文章で、教育ある人には誰にも理解しえられる語を使ふことに努力してある。しかし徒らに通俗的な本を著したのではなく、十分に學的性質を備へた書を公にすることに著書の企畫であつたことはその第一版の序文に明記されてゐる。まして哲學史の著者は哲學的思索をなしうる人でなければならぬことは當然のこゝみであるミ、その序論に述べてゐる位である。

従來我が國には邦文で西洋哲學史全般を詳述したものが少い。この譯書は三卷一千五百頁を上る豫定ミ思はれるから、學生及び教養ある普通の良參考書ミするこゝが出来よう。原著ミ同じ型の四六版で携帶に便にし、九ポイント活字を使つて、密に活字を組んであるから、ページの割に内容が豊富である。原著には各節毎に參考書目を多くあけて、學生の研究に便を與へてゐるが、譯書では我が國の讀者にミへて、さまで必要でないミ見て、すべて削つてある。しかし原文の脚註は成るべく之を存し、又譯者の考によつて、新に多くの註を加へてある。

譯は原著の第七版によつてある。私の手許に原著の第六版があるけれども、第七版はないので、細密な比較をする事は不可能であるが、原文の主旨に従ひ、平明な文では、流暢簡潔に譯してあるから、哲學書の譯にありがちな難澁な點（譯文を読むよりも原文の方が解し易いものさへ少くない）は無いと信ぜられる。原著に哲學者の人名索引と文獻著者の人名索引とが章を別にして添へられてゐるが、譯では内容索引を新たに作つて、三つをまとめてにして添へてあるのも便利である。

本書三卷を三人で分擔して譯出されるので、出來うる限り、相互交換して校閲し、譯語の統一には特に注意されたさうであるから、心配はないと思はれるが、一人の譯者が一冊の本を譯しても、巻初と巻末とで、往々譯語を異にし、初學者を迷はせるこゝがある。第二卷、第三卷が出版されない先に、特にこの點の注意をお願いしたい。次に本書には譯語に盛んに原語の發音を片假名で傍記してあるこゝである。これは譯書に廣く行はれる風習であるが、賛成しがたい。譯語に對する原語を併せ知ら

しめる必要又は深切から行はれたことも考へられるが、本書譯書では譯語の下に原語を歐字で添へてある場合にも、尙譯語に片假名を傍記してあるこゝも多から、さうでもあるまい。原義を的確に譯出できないなら、譯語を捨て、片假名のみを主用してもよいと思ふ。譯書第二ページで、*Wissenschaft* を學又は學問と譯すに註を以てこゝわり乍ら、後に至り、學問といふ語にギツセンシャフトと傍記してあつたり、譯の定まつてゐる理想主義や理論なごの語にイデアリスムス・テオリと傍記する必要は恐らくなからう。學語でもなき、單純に大家なごの語に、アインファツファ・マイスタアと傍記するこゝも同様である。甚だしい所は理想主義なる語が一頁に二箇所出るこゝ、一々に片假名を傍記してある所もある。譯者に何か特別の意見があつてのこゝか、但しは漫然世間の風に従はれたのか。後者なら、維新以來徒らに外國語を尊重する銜學の弊風が、まだ今日にも残つてゐるのであらう。譯者の賢察を祈る。（岩波書店發行、定價貳圓八拾錢）（高橋紹介）

理想 第十二號 (理想社發行、價壹圓)

本誌秋期特別號として、「現代思想研究」と題する倍大號が發行された。その要目次の如し。

フツセルの現象學(特にその現象學的還元) 高橋 里美
新哲學の指導原理 杉森孝次郎

意味的論理學の「意味」 山内 得立
形而上學の現象學(現代に於ける世界觀說の歴史と理論) 三木 清

現代價値學の諸形態(考察の序論) 岩崎 勉
新ヘーゲル學派の立場(及びそれに對する二三の設問) 大江 清一

鬭争の時代鬭争的文化 土田 杏村
マルクスと社會學 加田 哲二

アメリカニズムとサヴァエーティズムとの交錯 石濱 知行
マルキシズム批判としての新カント派社會學(主としてシユタムラー及びナトルプに就て) 丸山 岩吉

何處へ往く(現代文化の力とその方向) 矢吹 慶輝
新フランス學派の宗教社會學 古野 清人

思想 十月號 (岩波書店發行、價壹圓)

本誌も特輯號として「辨證法研究」と題し、増大號を出版した。その要目は左の如し。

行為と歴史、及び辨證法のこれに對する關係

現象學と唯物辨證法 田邊 元
デアレクチケー 本多謙三

ヘーゲルの史的辨證法に就て 鈴木權三郎
辨證法に於ける自由と必然 河野 正通

一般者の自己限定(下) 三木 清
ヘーゲル辨證論文獻 西田幾多郎

フツセルの事 鈴木權三郎
拙著「現象學叙説」について 高橋 里美

菩提樹の蔭 山内 得立
遊就館 中 勘助

遊就館 内田 百閒

雜報

松本博士を送る

前京都帝國大學教授文學博士松本文三郎氏は本年五月を以て、還曆に達せられたので、停年の内規により退職せられた。博士が印度哲學上に於ける貢獻の大なること、また多年大學の教